

## 第4章

## 計画の推進

---

1. 計画の進行管理
2. 公共サービスDOCK事業による行政評価

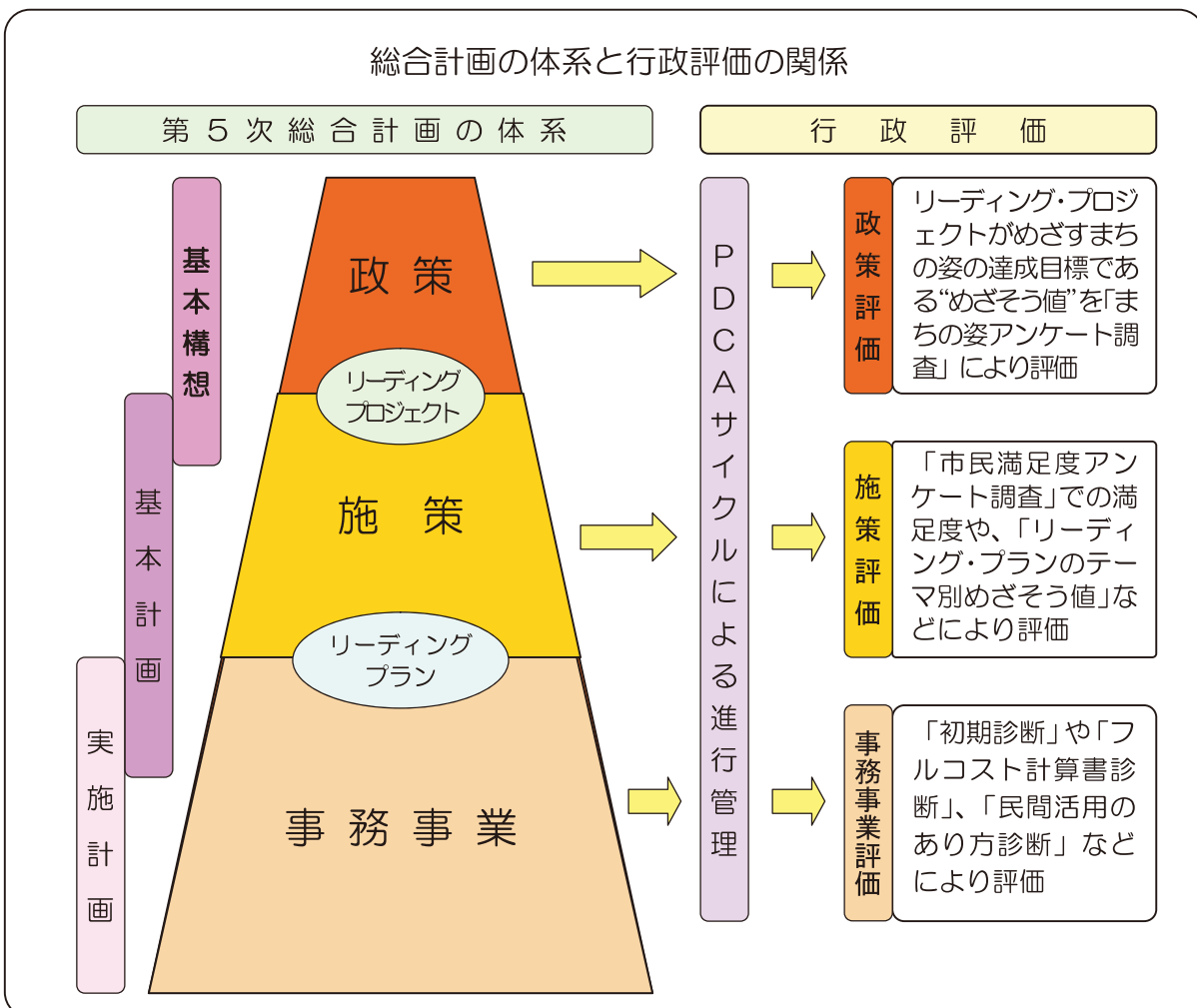
## 1. 計画の進行管理

第5次総合計画では、施策の目標が着実に達成されるよう、市民の視点に立った、市民に分かりやすいかたちで計画の進行管理を行います。

具体的には、基本構想のリーディング・プロジェクトに示した“プロジェクトが達成されたまちの姿”の達成度を評価の対象とした「政策評価」、基本計画のリーディング・プランや分野別プランに定める施策や事務事業を評価の対象とした「施策評価」と「事務事業評価」を行います。

また、分析・評価の結果は、ホームページや広報紙などで市民に公表します。

- 政策評価では・・・数値目標として設定した“めざそう値”の達成状況を「まちの姿アンケート調査」により分析・評価を行います。
- 施策評価では・・・「市民満足度アンケート調査」や「リーディング・プランのテーマ別めざそう値」の達成度などで分析・評価を行います。
- 事務事業評価では・・・本市独自の統合型行政評価システムである“公共サービスドック事業”による「初期診断」や「フルコスト計算書診断」などで分析・評価を行います。



## 2. 公共サービスDOCK事業による行政評価

公共サービスDOCK事業は、継続的に実施している公共サービスを対象に、多面的な視点からの行政評価（診断）を組み合わせることで、質の高い行政サービスの提供及び効率的で持続可能な行政経営（経営の最適化）を目指します。

財務の視点	⇒	フルコスト計算書診断	決算データを基に収支をまとめたシートを利用して事後評価を行うもの。
業務プロセスの視点	⇒	民間活用のあり方診断	公共サービスを業務の特性別に仕分けし、直営、外部委託、官民協働など、最適な公共サービスの担い手（実施者）の選定を行うもの。
		業務・システム最適化診断	公共サービスの内容および実施方法を簡潔に表記した「業務フロー」を作成し、重複するサービスの見直しおよびOA化による簡素化を計画的に推進し、全庁的な業務改善を行うもの。
市民満足度の視点	⇒	初期診断	実施計画事業である公共サービスの成果指標・活動指標を明確化し、その推移や目標の達成状況などから市民ニーズや事業効果を検証することにより、必要な公共サービスの選定及びスリム化を行うもの。
人材の育成と活用の視点	⇒	人事評価（業績評価 能力評価）	業績（成果）評価による業務の執行管理（職務目標の達成と業務量に応じた職員配置）と、能力評価による公共サービスを提供する職員の育成を行うもの。

